



this month  
HighLight  
1  
今月の注目

# 本町と中国 交流の第一歩

本町は8月16日から20日までの5日間、上海万博の日本産業館

特設ステージでお点前のパフォーマンスを披露。また、浙江省龍泉市を表敬訪問し、熱烈な歓迎を受けました。

1(上海万博)ステージで静風流お点前を披露する瀧澤満江さん 2(龍泉市訪問)持参した土産を趙建林市委書記に渡す 3(龍泉市訪問)宝剣作りの作業場を見学。職人は人間国宝 4(上海万博)観光パンフを見つめる来場者 5(上海万博)りんとした雰囲気のお点前・長田弘子さん 6(龍泉市訪問)宿泊ホテルには熱烈歓迎の横断幕が



茶箱入りの川根茶や議員からの風景写真(茶園と富士山)を手渡すと大層喜んだ様子でした。趙建林市委書記からは龍泉市で作られている青磁の茶わんが贈られました。龍泉市は人口28万人、市の面積の7割を山が占めている典型的な山岳地帯。川や田畑が風光明媚な景色を形づくっています。2500年の歴史を誇る宝剣、1600年の歴史がある青磁の産地としても

本町からは町議会議員、煎茶道静風流教授、本町在住の中国人崔紅さん、役員職員の総勢10人が参加。一行は8月16日、富士山静岡空港から出発し、17日に同会場でのPRを実施しました。本町は静岡県のお茶、特に煎茶をアピールすることを目的に、煎茶道のお点前のパフォーマンスを披露しました。煎茶道は中国の明の時代のお茶の飲み方を模倣したもの。日本では、江戸時代に独自の煎茶道文化として発達し、今日に至ります。今回お点前を披露した静風流は静岡で生まれた流派です。瀧澤満江さんを主席に、長田

弘子さんをお点前に、高畑雅一副議長・中澤智義第一常任委員長・森下睦夫課長と中国の人たちが作法にのっとりとお茶を味わいました。ステージ周辺には約300人の来場者が集まりました。職員が配布した本町の魅力を紹介したパンフレットを読みながら、興味深そうにお点前を見つめました。富士山静岡空港と直行便で結ばれている上海市の市民に、お茶の町「川根本町」をPRしました。

有名です。「生態環境は、浙江省の中でも指折りの地域です。そして川根本町と同様、お茶やしいたけなど、農業も盛んに営まれています。これからお茶の技術や森林管理、生物の保護など、共に学び、交流していただける可能性があります。ぜひ川根本町の皆さんに、龍泉市をご覧になってほしいです」と趙建林市委書記は話していました。一行は2日間かけて青磁の専門学校、宝剣作りの作業場、しいたけの加工施設などを見学しました。高畑雅一副議長は本町の自然の素晴らしさについて説明し「実際に来ていただき、見て感じてもらうのが一番。ぜひ龍泉市の皆さんに本町を訪問してほしい」と述べました。市委書記は「ぜひ年度内には、訪日を実現させたい」と返答しました。

今回の表敬訪問は、龍泉市本町の双方が友好を深める大きな一歩となりました。今後は互いの住民が行き来することで、交流の輪が広がっていくことが期待されています。企画課まちづくり室(56)2221

昨年未、本町で開かれた「平太さんと語ろう(知事広聴)」の広聴会で、川勝平太県知事より提案があった浙江省龍泉市との友好提携。それを受けてこのほど、上海万博に参加した一行が、龍泉市を表敬訪問しました。18日、上海を朝7時30分に出発した一行は、新幹線と高速道路を利用し、8時間かけて龍泉市に到着。龍泉市人民政府(市役所)を訪問しました。現地では、趙建林市委書記を始め市職員などが歓迎してくれ、本町からの土産である

浙江省龍泉市を表敬訪問